

特集 パラアスリート 吉越奏詞選手

プロフィール:よしごえ そうし。パラ馬術(グレードII)選手。目黒区で生まれ育つ。先天性の脳性まひにより右半身と下肢に障害がある。世界の馬術競技会などでも上位入賞するなど、パラ馬術界で期待の若手選手。東京2020/パラリンピックはパートナー馬「ハッシュタグ」、パリ2024パラリンピックでは「ジャビーロ」に騎乗し、2大会連続で出場。

公園の片隅から世界へ
馬と出会って、強くなれた



パラ馬術をご存じですか?

馬術はオリンピック・パラリンピックで、唯一動物と一緒に競技をする種目。馬場の中で、常歩(みあし)・速歩(はやあし)・駈歩(かけあし)の3歩法で图形を描いたり、ステップを踏んだりして、正確さや美しさ、姿勢などを競う。採点対象は選手ではなく、馬のパフォーマンスを最大5人の審判員が各10点満点で評価し、順位を決める。

パラ馬術は、障害に応じて、グレードと呼ばれる最大5クラスに分かれている。障害により、片腕に障害のある場合はバー型の手綱、脚に障害がある場合はゴムなどであぶみに靴を固定するなど、改良した特殊馬具の使用が認められている。

東京2020・パリ2024パラリンピックと2大会連続でパラ馬術に出場した吉越奏詞選手。脳性まひにより障害がある吉越選手が、どのように馬と出会い、パラリンピック出場という大きな夢を実現したのかを紹介します。

問スポーツ振興課スポーツ事業係(5722-9695、5722-9754)



吉越選手 history ヒストリー

平成12年8月 目黒区で誕生

重度の脳性まひで生まれ、将来歩行は難しいかもしれないと言われ、医師から告げられる。

馬に乗せてもらったら
本当に喜んで。私もとても
うれしかったですね(母)

1歳頃 初めて馬に乗る

碑文谷公園のポニー教室(3面参照)に通う兄の迎えについて行った際、馬に興味を示す。その様子を見た職員から「小さくても、障害があっても乗れますよ」と声をかけられ、引き馬で乗馬を初体験。

海外の試合に行って、
小さい子どもが馬に乗れる
施設があると言うと驚かれます(母)

2歳頃 ポニー療育で馬と触れ合う

すくすくのびのび園(3面参照)に入園し、週1回のポニー療育で馬との触れ合いが始まる。

ゲームよりも
テーマパークよりも、
馬が好きでした

小学生 ポニー教室に週6日通う

碑文谷公園に入学。碑文谷公園のポニー教室に参加し、放課後はすぐに公園へ。休業日以外はほぼ毎日馬と過ごす。

馬に乗る
のが好きでした

中学2年生 パラリンピック出場を決意

第七中学校に入学後も、ポニー教室を続ける。中学2年生の時、オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定したニュースを見た瞬間、出場を決意。本格的にパラ馬術を始める。

朝起きてきたと思ったら、
いきなり「パラリンピックに出るから」と言うので
本当に驚きました(母)

高校生 学業と練習に明け暮れる

日出高等学校(現・目黒日本大学高等学校)スポーツコースに入学し、週末は所属する乗馬クラブで練習。高校3年生で世界馬術選手権6位入賞。その後も国内外の大会に出場し、上位入賞を果たす。

卒業式

大学生 コロナ禍で出場を目指す

日本体育大学に進学。東京2020パラリンピックを目前に、新型コロナウイルス感染症が世界で拡大。大学にも大会にも行けない時期が続く中、唯一エンタリーできた海外の大会でパラリンピック出場権を獲得。

講義に出られないことも
多かったので、友人にノート
やプリントを見せてもらって、
勉強も頑張りました

21歳 東京2020パラリンピックに初出場

厳しい行動制限を経て、馬事公苑で行われたパラリンピックに出場。無観客の中、パートナー馬「ハッシュタグ」と挑んだ結果、10位に。

馬に乗る
のが好きでした

23歳 アスリート採用で就職

練習と海外を含めた大会出場を続けていくため、アスリート社員として株式会社小泉に就職。

ジャビーロに乗って見た
ベルサイユ宮殿は
壮大で、圧倒的な迫力でした

24歳 パリ2024パラリンピックに出場

2024年6月、日本代表として2度目のパラリンピック出場が決定。会場となったベルサイユ宮殿で、パートナー馬「ジャビーロ」と共に、9位の結果を収める。

ロサンゼルス2028パラリンピックは28歳。3度目の出場を目指す

ポニーに乗れたことが 奏詞くんとお母さんの 自信につながったと思います



目黒区児童発達支援センターすくすくのびのび園 公認心理師 佐藤さん

当園では、馬に乗ることで体幹を鍛えるだけでなく、馬と触れ合うことによる情操教育も期待できることから、ポニーによる療育も行っています。

奏詞くんが2歳の頃、お母さんからポニー療育を受けさせたいと相談がありました。しかし、当時は4歳以上が対象でした。一度はお断りしたのですが、お母さんは奏詞くんのために本当に必死で、私たちも応えたいという気持ちから、1・2歳クラスもポニー療育を始めることにしました。

馬に乗れるようになると自信がついて、職員やお友達とも上手に関われるようになり、他の運動プログラムにも積極的に参加するようになりました。お母さんも自信が持てるようになったんじゃないかなと思います。

ここでの馬との触れ合いが、パラリンピック出場につながったというのは本当に素晴らしいですし、私も励みになります。奏詞くんの活躍を、すくすくのびのび園のみんなで応援しています。

目黒区児童発達支援センターすくすくのびのび園



場中町2-23-24
問3714-1617、3794-4344

小さい頃から 馬と一緒にいる時の 吉越くんは凜々しかった



碑文谷公園こども動物広場 場長 立岩さん

最初の出会いは、吉越くんがすくすくのびのび園でポニー教室の団体利用に通っていた頃で、甘えん坊だなって印象でした。でも、小学生になり個人のポニー教室に通うようになってからは、自分より大きな馬に飛び乗る時などでも、できないけど、まずやってみようという一生懸命な姿が印象に残っています。パラリンピックを目指すって、本人だけでなく周りのフォローなども、とても大変だと思うのですが、吉越くんはいろいろな方たちにとても感謝しているなと感じていました。そんな吉越くんだからこそ、パラリンピック出場もかなったんだと思います。

子どもの可能性やチャンスはどこにあるか分からず。そのチャンスを大人がつぶしてしまわないように、この子は特別だとかではなく、どんな子でも公平に接することが大切なんだということを、活躍する吉越くんを見て、改めて思っています。

碑文谷公園ポニー教室



小・中学生を対象に、乗馬や馬の世話を通じて思いやりの気持ちを育み、集団活動での協調性などを養うことを目的に実施しています。

3ヶ月の定期登録制の個人参加のほか、団体(中学生以下で5人以上)

利用や、気軽に乗馬体験できる引き馬も実施しています。

場碑文谷6-9-11 碑文谷公園内
問共通3714-1548

吉越選手 Interview インタビュー

馬に乗っている時、僕は自由なんです

—吉越選手にとって、馬との出会いはどのようなものですか

小学生の頃は、自分は何もできない、みんなの迷惑になっていたり笑顔になっていたり、他の子と同じように乗れるうれしくてもっと乗りたくなったり、そしていくうちにどんどん自信がついてきたんです。馬が僕を支えてくれたと思っています。

—パラ馬術の魅力はどのようなところですか

パラ馬術は、フィギュアスケートのような採点競技です。騎手ではなく、馬の動きを審査員が採点します。そして、パラ馬術の特徴は、障害に合わせてさまざまな道具を使って演技するところだと思います。僕の場合は足にゴムバンドを巻いて固定したり、右手に装具をつけたりします。オリンピックなどとは違った姿で競技するところは大きな魅力です。

努力は夢への一歩になることを子どもたちに伝えたい

—今後の夢はですか

歩けなかった僕が馬と出会って、馬が僕の分まで一緒に歩いて、一緒に走ってくれた時、とてもうれしかった記憶が今も残っています。馬を通して、世界中に友達もできました。馬って、本当に親しみや安心感を与えてくれるんです。だから、老若男女を問わず、多くのかたに馬の素晴らしさをもっと知ってもらいたいし、馬に親しむ機会を増やしたいと思っています。そして、僕自身は、パラリンピックに10回以上連続出場したいと思っています。馬術は70歳を超えてできるスポーツですし、僕と同じ障害のクラスで68歳のメダリストもいます。連続出場でギネス記録にも挑戦したいですね。

—区民の皆さん、そして子どもたちへのメッセージをお願いします

パラリンピックの応援をありがとうございます。僕は今も目黒区で暮らしていて、目黒の皆さんに支えられて、今があると思っています。

子どもたちには、たとえ困難なことがあっても、苦労した分だけきっとその努力は夢につながると信じて、頑張ってくださいと伝えたいです。これからも応援をよろしくお願いします。

